

全体事業名称	世界記憶遺産を活用した国際交流拠点形成事業		
実行委員会	田川市世界記憶遺産活用活性化推進委員会		
中核館	田川市石炭・歴史博物館		
	住所	〒825-0002 福岡県田川市大字伊田 2734 番地 1	
	TEL	0947-44-5745	FAX 0947-44-5745
	ホームページ	http://joho.tagawa.fukuoka.jp/list00784.html	
構成団体	田川市文化遺産活用実行委員会、田川郷土研究会		
事業開始時点の課題分析	<p>田川市は、2020年の東京オリンピック・パラリンピック(以下、「オリパラ」という。)に向けて、ホストタウンに登録した。これを契機として市の活性化につなげるためにも、市民の国際交流への意識の向上が肝要である。そこで田川市では、国際交流員を駐在させるなどして国際交流の基盤を形成しつつあるが、田川市は海外との窓口である福岡・北九州都市圏から距離的に離れているため、海外訪問者等と実際にふれあう機会が少ないという大きな課題がある。</p> <p>一方、ユネスコ「世界の記憶」に日本で初めて登録された「山本作兵衛コレクション」を所蔵する田川市石炭・歴史博物館(以下、「市博物館」という。)では、登録直後の入館者数は前年度の約7倍に激増した。このことにより、市博物館は田川市における交流の拠点となり得る実績が認められる。あわせて、台湾やイギリス・フランス・ドイツ・スイス等の海外各国からも「山本作兵衛コレクション」へ高い関心が寄せられている。このように市博物館は、田川市における国際交流の拠点としてのポテンシャルを秘めているといえる。</p> <p>しかしながら、「世界の記憶」登録後7年が過ぎた現在の市博物館入館者数は、ピーク時から大幅に減少しており、関心の低下とあわせて、情報発信力の弱さが課題となっている。そこで、2020年のオリパラに向け、国際交流の拠点という市博物館の新たな機能を創出して強化することが、喫緊の課題となっている。</p>		
事業目的	<p>福岡・北九州都市圏から一足加えて田川市へ海外訪問者等を誘致するためには、行先に田川市を選定する動機付けが必要である。そのためには、海外へ通用するツールである「山本作兵衛コレクション」を最大限に活用して、田川市の特徴的な歴史と文化を海外へ発信することは有効である。ところで市博物館では、韓国に次いで訪日人数が多い台湾との交流を進めている。昨年度は、市博物館と友好館である新平溪煤礦博物園區をはじめ、新北市政府(黄金博物館)や国立台湾歴史博物館、文化部文化資産局長らを田川市のシンポジウムへ招へいするなど、交流を深めてきた。なお、シンポジウムの成果としては、十分な調査研究を行って歴史遺産の価値づけを行って、両者が協力して遺産を後世へ伝えていくことを再認識した。</p> <p>さらにH30年度は、田川市を走る平成筑豊鉄道と台湾鉄路平溪線が姉妹鉄道を締結する予定である。このように、博物館同士の交流が他の分野へも波及することで、地理的に不利という課題も克服できる。もちろん「山本作兵衛コレクション」自体の多言語化を行って、情報発信の素材あるいは市博物館での海外訪問客等の受け入れも必要であることは言うまでもない。</p> <p>以上から、①田川市の地名向上による訪問への動機づけ、②国際交流の基礎となる調査研究(学術交流)、③観光等他分野への波及、④多言語化による情報発信及び受け入れ素材の整備、を目的として「山本作兵衛コレクション」を所蔵する市博物館を国際交流の拠点として形成する取組みを行っていく。</p>		
事業概要	<p>国際交流は一朝一夕でならず、息の長い取組みが必要である。そこで今年度も引き続き、台湾を相手とした交流事業を実施した。台湾・文化資産局の支援により、H30年10月～12月には台中文化創意産業園區(台中市)、1月以降は新平溪煤礦博物園區(新北市)にて、「山本作兵衛コレクション」を中心とした「煤・記憶 台日文化交流特展」を開催した。関連して国際シンポジウムやワークショップも開催すると同時に、日台石炭交流史にかかる調査研究を行った。これらは上記①～③を実現する機会となり、「山本作兵衛コレクション」の多様な見方を検証し、現地の多くの人々に田川市の炭坑の歴史と文化を理解して興味をもっていただく契機となった。また、上記④の手段として、「山本作兵衛コレクション」の多言語化を実施した。「山本作兵衛コレクション」は同炭坑記録画に書き込まれた解説文が難解な日本語であるため、海外の人々が正しく理解することは困難である。そこで、市民と共働で平易な日本語に読み下したものをもとに、多言語化に翻訳してナレーションを作成して、台湾等海外への普及を図るほか、市博物館を訪れた海外観光客がより理解を深め、新たな魅力を発見する手助けとした。なお、今年度の事業により、世界記憶遺産に登録された「山本作兵衛コレクション」の炭坑記録画585点全ての多言語ナレーションが完成した。</p>		
実施後の成果・効果等	<p>継続して実施してきた台湾と市博物館の石炭交流は、台湾・文化資産局も注目することとなり、同局の支援で開催した展覧会は、会期中の見学者数を約20,000人も集めるほどの反響を得て、台湾における田川市及び「山本作兵衛コレクション」の知名度向上に貢献した。展示を見学した台湾の炭坑経験者が「日本と台湾の炭坑はよく似ており、作兵衛の作品を通じて若い人にも炭坑を知ってもらえたらうれしい」と語るように、「山本作兵衛コレクション」が台湾にインパクトを与えたことは、地方公立博物館としては特筆すべき活動である。</p> <p>さらに、「山本作兵衛コレクション」を通じた市博物館の台湾との交流は、2018年5月に台湾鉄路平溪線と田川市を走る平成筑豊鉄道が姉妹鉄道となり、翌年1月から相互利用乗車券を発行するなど、観光等の分野へも波及している。一方で、「山本作兵衛コレクション」の多言語化ナレーションが今年度で全ての作品について完成した。今後も、台湾等の海外で「山本作兵衛コレクション」に興味を覚えた訪問客が、田川市を相手先に選択して市博物館を訪問し、さらには地域住民と交流ができるような拠点づくりの機能を強化していきたい。</p>		

## 【事業実績】

田川市石炭・歴史博物館の国際交流拠点機能を形成するため、「海外旧産炭地等国際交流事業」と「海外観光客等に向けた環境整備」を実施した。

### 【1】海外旧産炭地等国際交流事業

台湾・文化資産局の支援により、台中文化創意産業園区にて、「煤・記憶 台日文化交流特展」を開催した(2018年10～12月)。「山本作兵衛コレクション」初の大規模な海外展示となり、田川市の歴史文化の発信のみならず、台湾における炭坑遺産の保存活用についての関心を惹起するなど、大きなインパクトを与えた。さらに、同展に関連した国際シンポジウムやワークショップ、また、市博物館が実施した調査研究を通じて、国内外の研究者らの関心も寄せられ、学术交流を推進するとともに、日台石炭交流への新たな素材を提供することとなった。これら一連の交流の成果は、市博物館と友好館である新平溪煤礦博物園区の館長を田川市観光大使に委嘱し、また、台湾鉄路平溪線と田川市を走る平成筑豊鉄道が姉妹鉄道となるなど観光分野にも波及して、インバウンドに対応する市博物館の役割を形成しつつある。

※マスコミでの報道成果 毎日新聞10月6日朝刊、国立教育廣播電台(台湾)、中華時報(台湾)



「煤・記憶」展(台湾・台中市)



田川市 PR コーナー



開幕式典(炭坑節)



国際シンポジウム

### 【2】海外観光客等に向けた環境整備

特に台湾においては、「山本作兵衛コレクション」の展示や調査研究、観光PRを含めた情報発信を通じて、田川市の存在が認知されようとしている。今後、台湾から田川市へのインバウンドが期待されるが、その拠点として市博物館の環境整備を行うべく、「山本作兵衛コレクション」の多言語ナレーションを作成した。具体的には、市博物館で月1回実施している「山本作兵衛ゼミ」(市民約10名参加)において、山本作兵衛炭坑記録画の解説文の読み下しを行った。その成果は平易な日本語の要約文に反映させた上で、英語・韓国語・中国語(簡体字・繁体字)に翻訳し、ナレーションの作成を行った。なお、今回の事業実施において、炭坑記録画585点全ての多言語ナレーションが完成した。(成果物)

- ・山本作兵衛炭坑記録画解説文の翻訳(英語・韓国語)※中国語(簡体字・繁体字)は博物館職員により作成
- ・山本作兵衛炭坑記録画解説文ナレーション(日・英・韓・中〈中・台湾〉)

#### 今後の課題

成果の指標としては、市博物館への海外入館者数が有効である。残念ながら、H30年度は総入館者ならびに海外入館者数とも前年度に比較して減少した(総入館者数:20,821人、海外入館者数:311人※3/24現在)。しかしながら、グラフからわかるように、市博物館の全体の総入館者数は、ユネスコ世界の記憶に登録された平成23年度をピークに徐々に減少するが、一方で海外入館者数の増減は、総入館者数のものと必ずしも一致していない。すなわち、国内からの関心の高低によらず、

条件次第で海外観光客を集客できると予想される。今回の事業で台湾現地での情報発信は効果があったが、今後は、作成した多言語ナレーションを活用して、市博物館のインバウンド受け入れ環境の整備をさらに進め、さらには地元住民が海外訪問客と触れ合う機会を創出するような、国際交流拠点の機能を一層強化していきたい。

